

城が峰会とともに歩む！

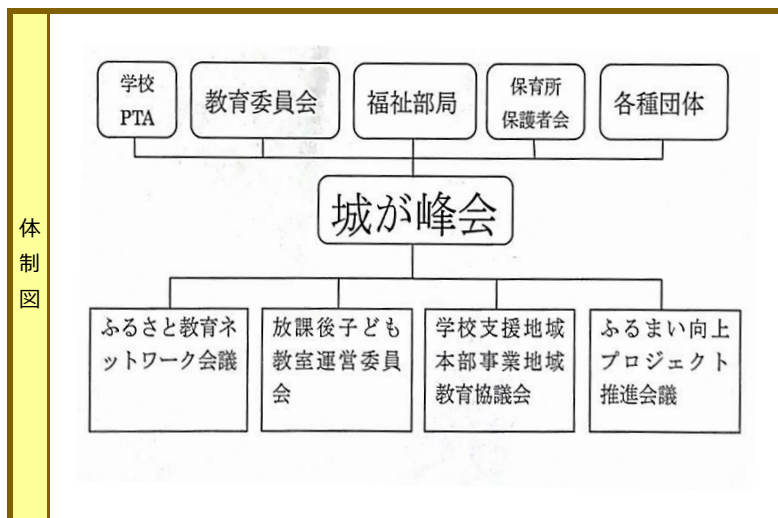
知夫村学校支援地域協働活動

市町村名	名称	関係する学校名
知夫村	知夫村学校支援地域本部	知夫小中学校

中学校区の人口	644 人		中学校区の世帯数	361 世帯	
開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	合計学級数	7 学級
				合計児童・生徒数	36 人
活動内容	学校支援（地域学校協働本部）	放課後支援	家庭教育支援	—	—

地域学校協働活動推進員等配置人数	統括的な地域学校協働活動推進員	統括コーディネーター	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター	合計
	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
(内訳)				行政職、派遣社会教育主事	
ボランティア等数	登録人数(H30)			活動延べ人数(H30)	
	0 人			68 人	
学校区の協議会	名称	主な構成メンバー			人数
	保小中一貫教育を支える会	学校管理職、PTA会長、保小中一貫教育を支える会会長、教育長、民生委員、社会教育委員、老人会会長、保育所保護者代表、保育所長など			13 人

連絡先	知夫村教育委員会（担当：村尾）
住所	〒 684 - 0102 隠岐郡知夫村 1 0 5 3 番地 1
TEL	08514 - 8 - 2301
FAX	08514 - 8 - 2302
MAIL	murao-m@vill.chibu.lg.jp
参考URL	なし



これまでの経緯

・各機関、団体、地域の人が連携・協力して子育ての方向性や具体的な事業を検討・実践すれば、より効率的・効果的な子育てができると考え、体制づくりを進めてきた。事務局を教育委員会が担っている。

目的

知夫村民の思いを結集し、知夫村の次の世代を担う子どもの健やかな成長を支援する。

○活動の概要

(1) 特色ある仕組み・体制・機能

・事前・期間中・事後においてサポーター、ボランティアの方々と協力し、企画の立案、参画などスタッフ同様に動いていただく。サポーター、ボランティアの提案した事業を行うこともある。

・有志による事業。

(2) 活動を実施する中で明らかになった解決すべき課題

・サポーター、ボランティアの世代交代、人材不足。

・内容の固定化、依存。

(3) 課題を解決するためのポイント

・新しいサポーター、ボランティアの発掘・養成

→PTA、保護者から協力していただけるサポーター、ボランティアを見つける。

・内容の見直し

→マンネリ化を防ぐために、計画の見直しを行う。

○活動を実施しての効果・成果

知夫村では急激な過疎化に伴い、近年、社会教育団体、社会教育施設の維持が困難となり、社会教育の衰退が顕著となっていました。子供を対象とした各種行事も少なくなり、地域の大人が子供の育ちに関わる機会が失われてきました。そこで、各方面より情報を集め、地域の大人が子供の育ちに関わる機会を増やしていく事を目的に城が峰会が結成され、平成25年度より活動しています。

スタッフは、約10名で構成されています。事業の企画・運営以外には、実際の活動支援にあたるサポーターの募集、広報紙の発行による活動周知など、一緒に活動するメンバーを増やし、活動が広がっていくよう取り組んでいます。運営委員会を立ち上げて7年目の活動となり、これまでの取組と比べ、会議等の開催回数、事業実施数が増加し、活動が充実してきました。また、サポーターの募集や事業に地域住民がより多く関わる機会を増やす工夫などで、活動の広がりがみられました。スタッフの活動意欲も高まり、スタッフからの提案による活動も充実してきました。これらの活動により、知夫村の子供たちにより多様な体験や経験を提供でき、子どもたちが意欲的に事業に取り組むようになってきたというような効果も実感しています。

○今後の方向性

活動のPRが充分ではなく、組織の知名度はまだ高くはありません。今後、広報紙の定期的な発行やサポーターの募集、また、保小中一貫教育との連携などを通して、さらに活動が広がるよう、地域を巻き込んだ活動になるよう努めていく事が重要だと感じています。また、地域の人々に関わることで村全体で子供たちを育てるという意識を持つことができるので地域の人々と協力しながら進めていったり、内容についても見直しや変更を考えていきたいと思えます。

○活動の様子



城が峰会及び保護者有志の方による「交流もちつき大会」の様子



城が峰会及び保護者有志の方による「はじめてのキャンプ」昼食準備中